



花川小学校の校舎内の大きな地図。ここには校区内の「こども110番いしかりサポート」に登録するお店や家庭が記されています。「この中には当校の卒業生もいます。本当に地域の方みんなに見守ってもらっていますね」とは大橋修作校長(写真右)。

「保護者たちの思い」

こうした「スクールガード」や「声かけ運動」といった子どもたちを見守る地域の活動を、その親たちはどのように受け止めているのでしょうか。

「地域の温かい目に見守られていることは、親として何より安心で、心強い」とは、伊藤美由紀さん。短大生と高校生、そして小学生のお子さんの母親として、伊藤さんは、これまでPTA活動にも積極的に参加してきた方です。

「でも、親自身に地域との交流がな

ければ、そのありがたさも分からないのではと思います。親自身が地域に溶け込み、子どもも地域の方に可愛がっていただける機会を作ることができるが必要かもしれませんね」

しかし、伊藤さんは子どもを見守るという点で、親にも地域にも限界はあると言います。

「子どもを24時間守り続けることは不可能なんです。だから、子どももある程度、自分で自分の身を守る術を身に付ける必要があるのではないのでしょうか」

◆大人の目と子どもの目

残念ながら「スクールガード」や「声かけ運動」を展開する今も、不審者の影がまったく無くなったわけではありません。

事実、取材先の小学校で子どもたちと話をしていると、「知らない男の人に突然、頭をなでられた」「40歳くらいの知らない男に、車の中から声を掛けられた」「後ろからいきなり雪山に顔を押し付けられた」などの声が聞こえてきました。

子どもの安全・安心のために必要なものは何か。その座標軸を考えると、一つが地域や親たちの温かくも厳しい大人の目であるならば、もう一つは状況を冷静に判断し、行動ができる「子どもの目」なのかもしれません。

「地域安全マップ」

地域の大人たちの子どもを守ろうという活動の一方で、子ども自身の危険回避能力―危険な場所を見抜く力を高めようという動きも目立つようになりしました。「地域安全マップ」づくりがその一例です。

◆子どもに呼び掛けるように

花川小学校では、平成13年から同校PTA生活委員会によるマップ作りが行われています。その名もずばり『危険箇所マップ』。

毎年、5月に保護者にアンケート調査が行われ、新たに危険な場所が増えていないかを確認し、その都度、夏用と冬用のマップを更新してきました。へ人通りが少なく、車が止まっていることもあり、一人では行かないで！



『危険箇所マップ』を指差し確認する花川小学校の児童たち。

こども110番いしかりサポート

平成11年、全国各地で子どもたちが犯罪や非行に巻き込まれる事件が多発し、市内でも車を使った暴行事件や変質者の出没が相次ぎました。

そのため、登下校時における子どもたちの事件や事故を未然に防ごうと、その緊急避難場所として、また一時安全確

保と警察に速やかに通報するシステムとしてスタートしたのが「こども110番いしかりサポート」です。

平成12年度末に126軒だった協力店舗・家庭数も、平成18年6月20日現在では602軒にまで増えました。今後も市民の皆様のご協力をよろしくお願いします！



川も近いので気をつけてね〜ヘルマ通りが多いけど歩道が雪で埋もれてるよ。通行には十分注意しよう〜など、注意書きはこのマップを使う子どもたちに呼び掛けるように書かれ、最近では文字だけでなく、写真も入れるなど、子どもたちがより理解しやすいように工夫をしています。

また、別の小学校では、マップ作りに子どもたちの声を取り入れているところもあります。

石狩小学校の「地域安全マップ」は、昨年11月に初めて作成されたもの。冬に向けての集団下校訓練に合わせて子どもたちと危険な場所について話し合った結果、子どもたちから指摘のあった危険な場所を実際にマップに記載していききました。

出来上がったものは、児童一人一人に配られたほか、子どもたちがより目にしやすいよう教室にも張り出してあります。今後は総合学習の中でもこのマップを使いながら、先生と子どもたちが一緒に校区内を歩く計画もあるといいます。

◆全道でも一早く

平成18年度、北海道と北海道教育委員会では、毎日の登下校時に子どもを不審者から守るため、パトロールボランティアの組織づくりを行う計画です。

これに先立ち、市では、すでに自主

花川小学校と石狩小学校の地域安全マップ。子どもたち自身が地域のことを考えるという役割も果たしています。



的に町内会や高齢者クラブ、PTAなどが組織するパトロール隊の皆さんに声を掛け、より充実を図るべく、各小学校区を基本に防犯などの専門的研修を受けた「スクールガード」を養成してきました。そのかいあって、17年度の4校区から18年度には8校区に増える予定です。

「声かけ運動」もまた、約90人の市民、町内会、高齢者クラブ、PTAの皆さんにご協力いただき、さらに、その活動場所も、従来の学校の玄関や校門前から、防犯の意味合いも兼ねて、

校区内の主要交差点や防風林などといったところにもまで広がりを見せています。

「地域安全マップ」については、子どもたちや保護者以外にも、校区内に住む地域住民や公共施設に配布され、地域全体で安全を管理しようという動きにつながっています。

子どもを守る取り組みを充実させたい。これが活動に携わる市民の皆さんの、共通の思いです。



地域安全マップを見る石狩小学校の児童たち。海と川に挟まれた校区を持つ同校のマップには、車や不審者への注意を促すほか、海や川へ子どもだけでは立ち入らないようにとの注意書きがあります。

◆子どもたちを見守る体制づくり に努めます

子どもを狙うさまざまな犯罪が目立つ中、石狩市では、まち全体で子どもたちを見守るという姿勢を強く打ち出しています。

そのための体制として、家庭や地域住民、学校、関係機関、警察などの連携を強化し、また町内会などと協力しながら、適切な情報提供や、防犯ボランティア活動の支援などを通して、安全・安心なまちづくりに取り組んでいきます。